

蟹江北中学校 令和3年度学校評価のまとめ

(1) はじめに

- 生徒と保護者の回答は、全ての項目で肯定的な評価の割合が否定的な評価よりも高くなっておりよい傾向であった。教師の回答もほとんどの項目で肯定的な評価の割合が高かった。3者ともに「学校生活を楽しく送ることができているか」、「校則（服装を含む）を守っているか」の質問において、9割以上が肯定的な評価をしている。今後も生徒の生活の様子に目を配り、生徒が安心して落ち着きのある学校生活を送れるよう心がけていきたい。

(2) 成果

- 1「学校生活を楽しく送ることができているか」について、肯定的な評価の割合が3者ともに高い。3者ともに高いのは、コロナ禍においても生徒にとって過ごしやすい「人、物、こと」の環境が整っているためだと考えられる。
- 2「学校生活で時間を守って行動することができているか」について、生徒と保護者は肯定的な評価の割合が高くなっている。教師は肯定的な評価の割合が比較的高くなっている。2者の評価と教師の評価に差が見られる。集団全員で時間を守ることを目標に、教師も時間を守ることを意識しながら機会を見つけて指導をしていきたい。
- 3「校則（服装を含む）を守っているか」について、肯定的な評価の割合が3者ともに高い。3者ともに高いのは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、継続的に新しい生活様式を守って生活しようとしていることで、校則も守ろうという気持ちを保っているためではないかと考えられる。
- 6「いじめや差別をされていないか」について、生徒や保護者の「されていない」という割合は高くなっている。教師はいじめや差別に関して、積極的な認知をしているため、「されていない」という割合は、2者に比べて若干低くなっていると考えられる。なお、「されている」と回答した生徒について、学級担任を中心とした丁寧な聞き取りとその内容を基に事実確認をし、支援、指導を行っている。あわせて、解消済みの事案も含め、人間関係等を注意深く見守りながら対応している。
- 7「いじめや差別をしていないか」について、生徒や保護者の「していない」という割合は、高くなっている。6「いじめや差別をされていないか」と同様に教師はいじめや差別に関して、積極的な認知をしているため、「していない」という割合は、2者に比べて若干低くなっていると考えられる。なお、「している」という生徒について、6「いじめや差別をされていないか」と同様の対応をしている。
- 10「学習内容が理解できているか」について、3者とも比較的肯定的な評価の割合が高くなっている。今年度は4月より生徒が登校でき、通常の期間で学習内容を履修できたためであると考えられる。これからも履修過程において、生徒一人一人の理解度に合わせた指導や支援を行い、基礎学力の確実な定着に取り組み、学力を高めていかなければならないと考える。
- 11「学習内容について分からなければ仲間と聴き合うことができているか」について、教師と保護者は比較的肯定的な評価が高くなっている。生徒は肯定的な評価が高くなっている。授業中に近隣座席の生徒同士で聴き合っている様子がうかがえる。生徒は学習内容が分からないとき、理解するため、友達にきくことに抵抗がないようである。
- 13「進路選択等に意欲的に取り組み、自分の将来について前向きに考えたか」について、3者ともに肯定的な評価の割合が比較的高い。生徒の自己評価を各学年別に見ると、学年が上がるにつれて肯定的な評価の割合が高くなっている。生徒が進路を選択しなければならないからであろう。今後も各学年で進路指導を中心に将来の職業選択も視野に入れながら、生徒一人一人の希望や夢を大切にされたキャリア教育を推進し、生徒が自分の将来を考える力を高めていく支援をしていきたい。
- 14「道徳の授業を通して、よりよく生きようという気持ちをもつことができていたか」について、三者ともに肯定的な評価の割合が比較的高い。道徳が教科化され3年目となり、教師の力量が向上したことと生徒が、「考え、議論する道徳」の授業に慣れ、実践しようとする気持ちももちやすくなったことが理由として考えられる。保護者の肯定的な評価の割合が比較的高いことについては、生徒が家庭で道徳の授業について話したり、道徳的な行動をとることがあるためではないかと推測される。

- 15「生徒の努力を認めていると思うか」について、教師と保護者は肯定的な評価の割合が高くなっている。生徒は肯定的な評価の割合が比較的高くなっている。集団の中で努力を認められていないと感じている生徒もいるため、これからも生徒一人一人の思いに寄り添い、職員全員で支えられるよう温かい言葉がけをしながら生徒の努力を認めていくことで自己肯定感を高めていきたいと考えている。

(3) 課題

- 4「時と場に応じた言葉遣いができているか」について、生徒と保護者は肯定的な評価の割合が高くなっている。教師は肯定的な評価の割合が高くない。2者の捉えと教師の捉えに差が見られる。教師が時と場に応じた言葉遣いを教えていくことを意識し、教師自身も言葉遣いに気を付けながら丁寧な指導をしていきたい。
- 5「挨拶や素直な返事ができているか」について、生徒と保護者は肯定的な評価の割合が高くなっている。教師は肯定的な評価の割合が高くない。2者の捉えと教師の捉えに差が見られる。挨拶や返事は学校生活だけでなく、卒業後も必要になると考えられるため、今後も継続して指導をしていきたい。
- 8「生徒は、プラス言葉（ありがとう、うれしい、いいね等）やプラス態度（協力する、相手を認める、声をかける等）を意識して行動できているか」について、生徒や保護者の肯定的な評価の割合は比較的高くなっている。毎月の取組により、学校生活で生徒たちが前向きな言葉を使ったり、相手を思いやったりすることができていると考えられる。また、家庭においても保護者との関係の中で、学校生活と同じような言動や態度をとっていると推測できる。教師の肯定的な評価の割合は、2者に比べて低くなっている。生徒の言葉や態度を教師が四六時中把握できているわけではないため、差が出たと思われる。今後も生徒が人間関係を円滑にするための発言や行動を意識する取組を継続的に行っていきたい。
- 9「交通ルールやマナーを守って登下校できているか」については、生徒と保護者は肯定的な評価の割合が高くなっている。教師は肯定的な評価の割合が低くなっている。2者の捉えと教師の捉えが乖離している。現状の登下校について、「自転車の並進」、「広がっての歩行」等の情報を地域からいただくこともあり、教師が直接指導する機会もある。軽微で済んでいるが、自転車通学者と車の接触事故も起こっている。生徒全員が安全に登下校するために、教師と保護者が協力して生徒の交通ルール遵守とマナー向上の意識を高めていくことが急務であると考ええる。
- 12「授業で、仲間のお話をじっくりと聴いて、学び合おうとしているか」については、生徒の肯定的な評価の割合は高く、保護者の肯定的な評価の割合も比較的高くなっている。教師の肯定的な評価の割合はあまり高くない。新学習指導要領を踏まえて生徒どうしの学び合いを取り入れた授業スタイルを推進しようとしているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、なかなかできない現状がある。そのため、教師の肯定的な評価の割合があまり高くないと考えられる。新型コロナウイルス感染症拡大防止に気を付け、可能な範囲で学び合いを取り入れた授業を実践していきたい。

(4) その他

- 保護者と教師の2者評価の項目については、5項目において概ね保護者と教師の肯定的な評価の割合は高くなっている。今後もより保護者の理解が得られるように開かれた学校を目指していきたいと考える。ただ、16「学校は教育方針を保護者に分かりやすく伝えているか」について、教師の肯定的な評価の割合が高くない。機会を見つけて情報発信に努めていきたいと考える。